

食

二年

画数 9
筆順 八、人、今、食、食
オン ショク・ジキ
クン く、川、川、川、川、川、川、川、川、川

成り立ち



「食器」に「食べもの」をもったかたちをあらわした「良(呂)」に、ふたのかたちをあらわした「人」を上にした字で、「食べもの」といういみをあらわしたものです。

いまの字は、「人」と「良」とでつくられていますので、「人」を「人」と見て、「人(のからだ)を良くする「食べもの」をあらわした字だ」と見ることができ、どちらでもわかりやすいほうで覚えてください。

「ショクは漢音で、ジキは呉音である。呉音は、「断食」など仏教に関係のある言葉に残っているだけである。」

使い方

▽ぼくは学校からかえると、おやつを食べます。おかしを食べるときもあれば、くだものを食べるときもあります。

▽せかいのくにぐにの中には、食物がたりないところがあるそうです。わたしのおかあさんは、「食べものをだいにしないよ、ばちがあたりますよ」とよくいいます。

熟語例

- ▽食物(食べ物のこと。食べられる物)
- ▽食事(一日のうち、あさ・ひる・ばんに、食べものを食べること。また、その食べもののこと。)
- ▽食用(食べられること。「これは食用ではありません」とかいてあるものは、食べるとおなかをこわします。)
- ▽間食(食事と食事の間に、ものを食べること。また、その食べもののこと。)
- ▽断食(食べものを断つこと。食べものを食べないこと。)
- ▽会食(あつまって、食べものを食べること。)

心

二年

画数 4
筆順 一、へ、心、心
オン シン
クン こころ

成り立ち



「しんぞう」のかたちをあらわしたもので、「しんぞう」といういみの字です。むかしは、ただ「シン」といっていました。

むかしは、人のこころのはたらきは「心ぞう」がつかさどっているとかがえられていましたので、「心」がそのまま「こころ」といういみにもつかわれるようになりました。

また、「まん中」といういみ、「たいせつなところ」といういみにもつかわれます。心ぞうはからだのまん中にあり、ひじょうにたいせつなところだからです。

使い方

▽おやは、子どもが、心身ともに、けんこうにそだつように、いのっています。

▽うちのねこが、子を生みました。小さな子ねこをだきあげると、心ぞうが、とてもはやく、どきどきとうっていました。なんだか、かわいそうになって、おやねこのそばに、おろしてやりました。

▽あたらしいこまをまわしたら、うまくまわりません。おとうさんが、しらべてから、「ああ、これは心棒がまがっているんだよ」といいました。心棒が中心をずれていたら、こまはまわるはずがありません。

熟語例

- ▽心身(心とからだ)
- ▽本心(本当の心のうち。本当におもっていること。「本心を、しようじきにはなさない」などといいます。)
- ▽中心(まん中。また、たいせつなところ、といういみにもつかいます。「文化の中心」などといいます。)
- ▽心棒(ものを中心に入れる棒)